新規就農者がナシ大苗を導入して産地づくり

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

近江八幡市津田内湖干拓地では、令和 4 年度に津田干拓地果樹生産組合ナシ部会（以下、「組合」）が設立され、4 人の新規就農者が 3.5haでジョイント栽培技術を導入した産地づくりに取り組んでいます。果樹棚の設置工事に合わせて令和 4～6 年度にかけて苗木を定植しますが、果樹棚の設置工事の進捗に影響されないように、別のほ場で不織布ポットを活用した大苗育苗（新梢長 2mの苗づくり）に取り組んでいます。令和 4 年度の大苗育苗取組者は 1 人で約 800 本を育苗しましたが、令和 5 年度は新たに 2 人増え、3 人で約 2,300 本を育苗することになるため、目標の長さ（新梢長 2m以上）の苗木育成と、育成した大苗の適期定植について支援しました。

【普及活動の内容】

不織布ポットへの定植（令和 5 年 3 月）後の肥培管理や GA ペースト塗布について、研修会や現地指導により、育苗の技術習得を図りました。大苗育苗後のほ場定植については、植穴準備の方法やスケジュールを示し、12 月末を目途に終えられるように働きかけました。

また、ジョイント栽培技術を習得するために鳥取県と神奈川県の試験場と生産者ほ場を視察しました。

写真1　鳥取県園芸試験場を視察

【普及活動の成果】

苗木の新梢の伸長量は平均 248 ㎝で、80％が 2m 以上となり、順調に大苗が育成でき、技術習得が図れました。令和 6 年度も同数の大苗を育苗予定であり、次年度の育苗に繋がる取組となりました。育苗後の定植は、11 月から植穴を準備し、12 月から本格的に定植が始まり、1 月末には完了できました。また、ジョイント栽培の先進地視察により、実際に栽培されているほ場の管理技術を学ぶとともに情報交換ができ、対象者の意欲が向上しました。

写真2　大苗の定植作業

◎対象者の意見

大苗育苗は、風当たりが強い場所は生育が良くないが、概ね目標の長さになりました。ほ場への定植も 1 月末には完了でき、計画通りに取り組めました。（生産者A氏）